

令和5年度病害虫発生予報第12号（3月）

令和6年3月1日
愛知県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
コムギ	赤さび病	やや多い	県全域	前年は一部地域で発生が確認された 平均気温12℃かつ降雨のあった日が4日以上観測された 3月の気温は平年並か高い 3月の降水量はほぼ平年並	－～± ＋ ±～＋ ±
	うどんこ病	やや多い	県全域	前年5月下旬の発生量は多い コムギの生育が早い	＋ ＋

・防除対策

[コムギ・赤さび病]

本日発表の「コムギ赤さび病情報第1号」を参照してください。

[コムギ・うどんこ病]

本日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第17号」を参照してください。

・留意事項

コムギ黄斑病の初発が確認されています。詳細は、本日発表の「コムギ黄斑病情報第1号」を参照してください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ナシ	黒星病	平年並	県全域	前年秋期の発生量は平年並 3月の降水量はほぼ平年並	± ±
モモ	せん孔細菌病	やや少ない	県全域	前年秋期の発生量はやや少ない 3月の降水量はほぼ平年並	－ ±
ブドウ	黒とう病	やや多い	県全域	前年の発生量が多い	＋

・防除対策

[ブドウ・黒とう病]

越冬伝染源である棚に残った巻きひげや被害枝などは見つけ次第、園外へ持ち出して処分しましょう。特にシャインマスカットは巨峰より本病に弱いため、防除を徹底しましょう。デランフロアブルやベンレート水和剤などで休眠期防除を実施しましょう。

・留意事項

カンキツそうか病について、令和5年10月下旬に実施した巡回調査（ウンシュウミカン20ほ場）において発生量がやや多い状況でした。本病の病斑が多く形成された葉が第一次伝染源となるので、樹勢等生育に影響が出ない範囲で見つけ次第枝ごと除去しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キャベツ	コナガ	平年並	県全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の気温は平年並か高い 3月の降水量はほぼ平年並	－ ±～＋ ±
タマネギ	白色疫病	やや多い	県全域	2月下旬の発生量はやや多い 3月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
	べと病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の降水量はほぼ平年並	± ±
トマト (施設)	疫病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	多い	県全域	2月下旬の発生量が多い 3月の日照時間はほぼ平年並	＋ ±
	葉かび病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	コナジラミ類	多い	県全域	2月下旬の発生量はやや多い 3月の気温は平年並か高い	＋ ±～＋
ナス (施設)	うどんこ病	やや多い	県全域	2月下旬の発生量はやや多い	＋
	灰色かび病	やや多い	県全域	2月下旬の発生量はやや多い 3月の日照時間はほぼ平年並	＋ ±
	すすかび病	やや少ない	県全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の日照時間はほぼ平年並	－ ±
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の気温は平年並か高い	－ ±～＋

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キュウリ (施設)	べと病	やや少ない	県全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の日照時間はほぼ平年並	－ ±
	うどんこ病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	2月下旬の発生量は少ない 3月の気温は平年並か高い	－ ±～＋
イチゴ (施設)	灰色かび病	やや多い	県全域	2月下旬の発生量はやや多い 3月の日照時間はほぼ平年並	＋ ±
	うどんこ病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	やや多い	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の気温は平年並か高い	± ±～＋

・防除対策

[タマネギ・白色疫病]

収穫前日数に注意し、プロポーズ顆粒水和剤やリドミルゴールドMZなどの薬剤で防除しましょう。発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り適切に処分しましょう。

[トマト(施設)、ナス(施設)、イチゴ(施設)・灰色かび病]

1月30日発表の「病害虫発生予察注意報第16号」を参考に防除しましょう。

[トマト(施設)・コナジラミ類]

12月4日発表の「病害虫発生予察注意報第15号」を参考に防除しましょう。

[ナス(施設)・うどんこ病]

発生が多いほ場ではダイアメリットDFやパンチョTF顆粒水和剤などで防除しましょう。

[イチゴ(施設)・ハダニ類]

ダニオーテフロアブルや気門封鎖型農薬等で防除しましょう。天敵や訪花昆虫を放飼している場合は、それらへの影響を考慮し農薬を選びましょう。

・留意事項

キャベツでは、春先に気温が高くなるとコナガの成育が早くなり、発生量が増加します。発生を確認したら速やかに防除しましょう。収穫終了後は、残さを速やかにすき込みましょう。

タマネギのべと病の発生株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り適切に処分しましょう。発生を確認したほ場では、速やかに薬剤で防除しましょう。

イチゴのアザミウマ類は、例年、気温の上昇とともに発生量が増加します。施設開口部や吸気口の付近等発生しやすい場所をよく観察し、発生を確認したら速やかに防除しましょう。天敵を導入している、あるいは導入を予定している場合は、それらの影響日数に注意して農薬を選定しましょう。

花き

・留意事項

夏秋ギクの採穂の時期になります。ウイルス病などの病害が発生していない親株から穂を採りましょう。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」(アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/yougo.html>)を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台2月29日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並みか高い見込みです。降水量は、ほぼ平年並みの見込みです。日照時間は、ほぼ平年並みの見込みです。

週別の気温は、1週目は、平年並みの確率50%です。2週目は、平年並みまたは高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並みまたは高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：20% 平年並：40% 高い：40%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：30% 多い：40%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：30% 多い：30%